

(三宝院)賢俊 真言宗の僧。"黒衣の宰相"。画策し、三宝院門跡の地位と将軍家・天皇家との密接な関係を築いた。

けんしゅん

一山一寧来日1299 = 鎌倉期に公家社会に地位を確立した権大納言日野俊光の子に生まれる。兄の資名・資朝・資明も、のちそれぞれ政界中枢に深く根をおろして行く。

将軍追放交替1308 = 9歳 :

文保御和談・1317 = 18歳 :

後醍醐天皇・1318 = 19歳 :

北条分家執権1326 = 27歳 :

宝池院賢助大僧正に入室して真言宗の灌頂を受け、

鎌倉幕府滅亡1333 = 34歳 :

中先代の乱・1335 = 36歳 : 足利尊氏の助力を得て、権勢を誇る後醍醐天皇方弘真(文観)を駆逐し、
南北朝分裂・1336 = 37歳 : *権大僧正に任じられ、醍醐寺65代座主となり、根来寺座主も兼ねる。同年九州に逃れた足利尊氏に光厳上皇の院宣を斡旋し、京都回復を助けたことで、さらに熱心な帰依を受けるようになり、三宝院をはじめ遍智院・宝池院など多くの院家を管領し、醍醐寺管領の若宮八幡宮社務も兼ねた。東寺二長者、

..... 1337 = 38歳 : 五壇法の脳壇を担い始め、
醍醐寺に食邑6万石を寄せられて諸伽藍を再建、さらに京都に新三宝院を造営してその院主となる。

..... 1340 = 41歳 : 東寺125代長者となり、

五山制定・1342 = 43歳 : *法務大僧正になるなど、あらゆる采職を一身に集める。

..... 1344 = 45歳 :

将軍家の護持僧として各種祈禱を執行したほか、禁裏・仙洞にもしばしば参仕。

観応の擾乱始1350 = 51歳 : 東寺長者職を辞して、尊氏とともに九州鎮定に赴いた。

..... 1351 = 52歳 : この年、摂津国の荘園を濫妨して訴えられるなど、辣腕ぶりを示す。

観応の擾乱終1352 = 53歳 : *以降、尊氏の権勢反映し五壇法の中壇担当。後光厳天皇の擁立に活躍するなど政界にも深く関与、

..... 1353 = 54歳 :

醍醐寺座主は22年、東寺長者は15年という異例の長期にわたり、「栄耀至極、公家武家権勢比肩の人無し」と評される。三宝院門跡の地位と、将軍家と日野家との密接な関係とは、賢俊の活躍によって定まった。外交僧としても尽力し、

..... 1357 = 58歳 : *醍醐寺座主職を辞し、まもなく示寂した。